１円集金

「週末寸言」原稿　２０１１／０１／２２

「一円下さい」とお願いして、くれない人はまずいまい。ならば、世界中の人々から１円ずつ集めて歩けば６０億円の大金持ちになれる勘定だ。しからばといって、峻嶮なる山を越え、怒涛の海を渡って集金して歩いてみれば、集まる前に餓死してしまうこと間違いなかろう。この「発想」は、原理ではあり得ても現実には不可能なことの典型的な例である。

しかし、こういう「無茶なこと」を実現した企業があると聞けば驚きだ。今を時めくアメリカのグーグル社はまさにこういう「１円集金」を実現させた典型的な企業といっていいだろう。

そこでは、まず人々が「こんなものが有ったらいいな！だが、儲けが無いから誰もやらないだろうな」と思うようなことをまずやる。どうもここが要諦のようだ。そして「儲からない」筈の仕組みの中に、誰も出し渋らない「１円集金」システムをひそかにビルトインしておく。インターネット検索システム、地図検索システム、動画投稿サイト、クラウドコンピュータ等々の一連の発想は、要するにこの「１円集金のＩＣＴシステム」と呼ぶべきビジネスモデルだ。

米国アップル社の音楽配信や読書端末、トレンドマイクロ社他のインターネットセキュリティサービスなどなど、総じてアメリカ生まれのＩＴビジネスの要諦は、ネットワークを通じて「１円集金」を可能とするというところに尽きるようだ。地球上津々浦々、人々がせっせと自前で引いた情報通信ネットワークにタダ乗りできるのだから、今や集金に「峻嶮なる山を越え、怒涛の海を渡って」歩く必要はなくなった。かくて果報は寝て待てばよいのである。

日本のＩＴ企業がかくも優れたハードウェアを生産しながらいまだに世界のＩＣＴ企業になれない根本的な相違が、この「１円集金」能力の欠如ではないだろうか。国是としての「加工貿易立国」という一枚看板にしがみ付いて「モノを作る」ことばかり考えて、「コトを創る」ことを考えなかった。こんなところに日本企業の苦戦の原因が有ったのではないだろうか。